

介護実習の早期実施に関する有効性の検討

武 藤 久 枝

平 松 夕 奈

要 旨 人間福祉学科の一期生47名を対象として初めての介護実習に参加する動機づけを実習参加直前と直後において5段階評定尺度によって把握し、その後の学習に及ぼす影響を検討した。

その結果、1) 実習参加前では実習に対する不安感や緊張感を強く感じながらも学習意欲は高かった。2) 実習後では良い介護を身につけたいとの学習意欲が高まったものの、実習時期が早くて事前準備が不十分としていた。3) 実習前と後における共通内容の質問を比較した結果、とくに変化が大きかったのは実習は楽しかったことと自信がついた点であった。肯定的心構えの項目を中心にほとんどの項目で肯定的に変化していた。

以上から、学生は実習経験を有意義に意味づけるよう変化した。今後の課題として、学生が自己の実習体験を肯定化して内在化していく過程をカリキュラム編成につなぐことである。

I. 問題と目的

本学の人間福祉学科は介護福祉士の養成課程として平成14年4月に開設された。人間福祉学科では第I段階の実習を1年次の夏休みに実施している。これは学生が早期に実習を経験することによって、その後の学習意欲を喚起しながら明確な動機づけを形成する目的のもとに行われている。しかし、入学前に家族の介護を日常生活において直接または間接的に経験した学生は少なく、入学時点で介護に対する正しいイメージや明確な動機づけを持つ学生は少ないようである。介護福祉士養成カリキュラムにおいて、介護実習は非常に重要であり、これを有意義なものとして位置づけるための方策が必要と考えられる。そのためには、介護実習に参加した経験が学生のその後の学習意欲や介護に対する動機づけに及ぼす影響を把握する必要がある。教育効果の測定のためには、数年分の卒業生を送り出してからの検討が有効であることはいうまでもないけれども、I期生の教育に取り組みながら、検討せざるを得ないのが現状である。

こうした現状をふまえて、本研究では、第1に第I段階の介護実習参加直前と直後における学生の動機づけを把握することを目的とする。第2の目的は介護実習の経験がその後の学習の動機づけに及ぼしている影響を明らかにすることである。そのため、

研究1では質問項目の収集を予備的検討として行ない、研究2では本研究として上記の2つの目的を検討することとする。

II. 研究1—質問項目作成のための予備的検討—

1. 目的

第I段階の介護実習前と実習終了後における実習に対する学生の動機づけを把握するための質問項目を作成する。

2. 方法

高齢者福祉施設や実習に関する質問項目の作成のため、以下の2つの資料を収集した。

(1) 対象と時期

岡崎女子短期大学人間福祉学科1年生48名。平成14年6月～7月。

(2) 資料の収集

① 高齢者施設の見学アンケート

高齢者福祉施設への見学を入学後約2ヶ月目に初めて行った。平成14年6月下旬に1年生48名は、介護実習指導の授業時に高齢者福祉施設を見学した。見学終了後1週間以内に、高齢者に接した感想とその時の行動、それ以後の授業理解に関する内容のアンケートを実施し、全員の回答を得た(資料1)。

② 特別授業の感想

老人保健施設職員による特別授業「老人保健施設

表1 見学で痴呆の高齢者への接し方 n=48

	人 数	(%)
1. そばに座った	22	(45.8)
2. 近くで見ている	17	(35.4)
3. 話しかけようと思っても話せなかった	16	(33.3)
4. あいさつ、自己紹介で話しかけた	15	(31.3)
5. 小グループで話した	15	(31.3)
6. 手をつなぐなどのスキンシップをとった	8	(16.7)
7. あいさつや自己紹介よりも沢山話した	7	(14.6)
8. 一緒に歌をうたった	7	(14.6)
9. その他	5	(10.4)
合 計	112	(233.4)

表2 見学後の授業を理解する上で役立った授業の具体的内容 n=48

	人 数	(%)
1. 介護技術 I	32	(66.7)
2. 形態別介護技術	26	(54.2)
3. 介護実習指導	14	(29.2)
4. 精神保健	13	(27.1)
5. 介護概論	12	(25.0)
6. 社会福祉援助技術	12	(25.0)
7. 老人福祉論	11	(22.9)
8. 医学一般 I	11	(22.9)
9. 障害者の心理	10	(20.8)
10. 実習オリエンテーション	9	(18.8)
11. 家政学概論	7	(14.6)
12. 障害者福祉論	5	(10.4)
13. 倫理学	5	(10.4)
14. 社会福祉概論	4	(8.3)
15. 情報基礎演習	0	(0.0)
合 計	171	(356.3)

における介護のあり方」を学生は受講した。その感想レポートを終了後に収集した。

3. 結果

(1) 高齢者施設の見学アンケートの結果

①高齢者に接した過去の経験

ボランティアや実習等で痴呆の高齢者に接した経験を質問をした結果、「今回の見学が初めて」と回答した学生(28名:58.3%)が最も高い割合を示した。「4回以上」経験していた学生(11名:22.9%)と「1～3回」と回答した学生はそれぞれ約半数(9名:18.8%)であった。以上から、学生の約半数以上が痴呆の高齢者と接した経験は初めてであっ

たと考えられる。

②痴呆の高齢者に対する接し方

痴呆のある高齢者に対する今回の見学での接し方について9項目の選択肢から複数回答を求めた。その結果、「そばに座った」(45.8%)と回答した場合が最も高い占有率であり、「近くで見ている」(35.4%)、「話しかけようと思っても話せなかった」(33.3%)、「挨拶、自己紹介で話しかけた」(31.3%)、「小グループで話した」(31.3%)、「手をつなぐなどのスキンシップをとった」(16.7%)、「挨拶や自己紹介よりも沢山話した」(14.6%)、「一緒に歌をうたった」(14.6%)の順であった。回答者の累計は

112名(233.4%)であったため、学生1名当たり平均2.3項目を選択したと考えられる。

また、「その他」(10.4%)の内訳は「おしほりをたたんでいたので一緒にやり方を教えてもらって最後に握手した」、「歩く人の後を追って様子を見ていた」などであった(表1)。

③見学後の授業理解

見学がその後の授業理解に役に立ったかどうかの質問をした。前期で開講されている15科目をあげ、見学体験が授業理解に役立っているかどうかについて回答を求めた。その結果、「介護技術Ⅰ」(66.7%)、「形態別介護技術」(54.2%)、「介護実習指導」(29.2%)、「精神保健」(27.1%)、「介護概論」(25.0%)、「社会福祉援助技術」(25.0%)の順であり、上位5位の大半は技術系の科目であった(表2)。複数回答の処理をし、回答者の累計は171名(356.3%)であったため、学生1名あたり平均3.6項目を選択したと考えられる。

④高齢者福祉施設のイメージについて

特別養護老人ホームなどの高齢者施設に対するイメージを、見学以前と見学後についてそれぞれ自由記述で回答を求めた。自由記述の中から、実習に行く前の学生の感情や心構え(大変そう、コミュニケーションがとりにくそう、和やか等)に関する部分を抜粋した。一覧表に示す(表3)。

(2) 特別授業の感想

感想レポートから施設の印象や実習に関して記述した部分を抜粋した(表4)。

(3) 質問項目の構成

以上の収集資料、および文献等をもとに、介護実習前に実施するアンケート(以下、実習前アンケート)と介護実習後に実施するアンケート(以下、実習後アンケート)の2種類を作成した(資料2,3)。

実習に対する気持ちを聞く文章完成法(SCT)15項目と5段階評定尺度による質問(実習前15項目、実習後16項目:うち9項目は共通した内容)によってアンケートを構成した。実習前アンケートと実習後アンケートでは、9項目の設問内容が共通であり、これらの5段階評定尺度の得点の変化によって実習効果を把握した。

①実習前アンケートの作成

第1に、実習に対する心構えに関する質問内容として、実習を行う自信、うまくできる、実習は大変との3項目を設定した。このうち、2項目(大変、自信)は実習後にも当てはまる内容であったため、実習後アンケートとの共通項目とした。第2に、実

習に対する肯定的構えとして実習への楽しみや期待感、そして意欲(実習で勉強したい、頑張ろう)に関する4項目を設定した。実習後アンケートでは、期待感を除いた3項目を共通項目として、充実感や嬉しかったとの気持ちの質問内容の項目を付け加えた。第3に、実習に対する不安や否定的な心構えに関する質問内容(緊張、不安、焦り、失敗)の4項目を設定した。質問内容から、実習後アンケートと共通した内容には作成出来なかった。最後に、事前準備に関する質問内容として4項目を設定した。これを、自己準備や学習内容に関する2項目と学校の準備や授業体制の準備に関する2項目とに分けて、実習後アンケートとすべて共通内容とした。

②実習後アンケートの作成

実習前アンケートと共通した質問内容の9項目に実習後の内容(疲れた、後悔した、良い介護を身につけようと思ったなど)にふさわしい7項目を加えて合計16項目とした。

③評定尺度の作成

5段階評定尺度を作成してランダムに配列した

Ⅲ. 研究2—本調査—

1. 目的

第1に、第Ⅰ段階の実習参加直前と直後の各時期における学生の動機づけを把握することを目的とする。第2の目的は、実習経験がその後の動機づけに及ぼした影響を明らかにすることである。実習に対する動機づけをSCTテストと評定尺度との2つによって把握した。今回は、評定尺度の結果のみ取り上げる。

2. 方法

(1) 対象

研究Ⅰの対象のうちで実習に参加した学生47名である。

(2) 実施手続き

実習前アンケートは第Ⅰ段階の実習に参加する3日前に実施し、その日のうちに回収した。アンケートには1~48の通し番号をつけ実習終了時に再アンケートを行うので番号を覚えておくよう学生へ教示した。実習後アンケートは実習最終日の帰校時に引き、その日のうちに回収した。

(3) 分析方法と分析対象

①各段階の人数を集計した後、「全く思わない」~「とても思う」までに1~5点を当て、各項目の平均を求めた。

表3 施設に対するイメージ

見学前		
・怖い	・独特の臭いがある	・顔色が悪い
・接しにくい	・どんよりしている	・元気がなさそう
・暗い	・活気がなさそう	・コミュニケーションがとりにくそう
・病院のよう	・人目に付かない所に建っている	・施設にいたくないと感じている人が多い
・狭い	・部屋の造りがすべて同じ	・楽しそうではない
・冷たい	・ごちゃごちゃしている	・心を閉ざしている
・古い	・ばたばたしている	・うつろな表情をしている方が多い
・汚い	・自分の部屋で寝ているだけ	・元気に話さない
・くさい	・利用者同士は話さない	・援助者と利用者の立場がはっきりしている
・きれい	・部屋の数はいくつか	・利用者は外出することなく室内で過ごしている
・明るい	・部屋に閉じこもりにされている	・管理的
・前向き	・プライバシーが守られていない	・設備が整っている
・大変そう	・個人の自由がない	
・うるさい	・鉄格子みたいなものがある	
・騒がしい	・隔離されている	
・バラバラ	・閉じこもっている	
・じめっとしている	・不思議な空間	
見学後		
・安心	・ゆったりとしている	・自分の生活をしている
・あたたかみ	・広い	・利用者の表情が明るい
・明るい	・安全	・生き生きしている
・にこにこしている	・快適	・元気
・なごやか	・さわやか	・利用者さんが楽しそう
・ゆったり	・落ち着いている	・利用者は優しい
・おだやか	・華やか	・利用者は接しやすい
・カラフル	・新しい	・のびのびとしている
・なごむ	・プライバシーが認められてきている	・本当に家で過ごしている雰囲気
・綺麗	・人として生活できる空間が作られてきている	・利用者とスタッフの仲がよさそう
・静か	・隔離されていない	・レクリエーションが楽しそう
・設備が整っている	・個人の生活が守られている	・設備がよい
・暮らしやすそう	・利用者のことをとても考えている	・独特な臭いがしない
・ホテルみたい	・やすい空間	・異空間
・色々なところに工夫がある	・ゆとりをもって生活している	・大変
・活気がある		・驚いた

②実習に対する心構えや肯定的構えが形成される方向に高得点となるよう処理した。実習前後の変化においても肯定的に変化した方向に高得点となるよう評定した。反転項目は、肯定的構えが形成された方に高得点になるよう逆転処理をした。また、事前準備が自分なりに出来たり、教員が十分な準備をしたと変化した方向に高得点の評定となるよう処理した。

③実習前と実習後とで共通した9項目のうち、「心理的構え」2項目、「肯定的心構え」3項目、「実習前の事前準備」2項目を3分類した。各項目の実習前後の評定値の人数分布と平均値とをまとめた。

3. 結果と考察

(1)回収率：実習前アンケートでは47名回収(100.0%)、実習後アンケートでは45名の回収(95.7%)であった。アンケートの記入不備、1回目の実施等を除いて、実習前アンケートと実習後アンケートとの2回分回収できたのは32組(68.1%)であった。

(2)実習前アンケートの結果

5段階評定尺度の得点の高い順に示す(表5)。第1位は、「実習は大変」であり、以下、「実習を行う不安」、「実習への緊張」、「実習で学ぼう」、「実習がうまくできないのではないかなと思う」と続く。その反対に、最も得点が低いのは「実習がうまく出来

表4 施設の印象と実習に関する感想

<ul style="list-style-type: none"> ・不安—少しの不安 かなりの不安 ・失敗ばかりだったらどうしよう ・自分なんか利用者さんに何ができるのか ・コミュニケーションが苦手 ・緊張 ・心配 ・驚いた ・怖い ・厳しい ・難しい ・辛い ・反省する ・焦る ・大変 ・パニックになる ・実習のことで頭がいっぱい ・できない ・本当の福祉とはなんだろう ・頑張りたい ・学びたい ・頼られる介護福祉士になりたい吸収したい 	<ul style="list-style-type: none"> ・負けないようにする ・成長していきたい ・やり甲斐を味わいたい (コミュニケーション) ・積極的なコミュニケーションを心がける ・色々な人に話をする ・分からないことは聞く ・語尾までしっかり話す ・はきはきと話す ・明るく話す ・元気に話す ・相手の目を見ながら話す ・相手のことを考えて話す ・しっかりと声を出す ・自分の意見を言う ・質問する ・率直に自分の気持ちを伝える (言葉遣い) ・丁寧な言葉遣いをする ・敬語を練習する ・赤ちゃん言葉は使わない ・名前で呼ぶ (あいさつ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・目を見てあいさつする ・元気よくあいさつする ・はきはきあいさつする ・明るくあいさつする ・自分から進んであいさつする ・勇気を持ってあいさつする ・相手が気持ちよくなるようなあいさつをする (返事をする) ・返事は一回で何度もしない ・返事はしっかりする (積極的にする) ・何事にも取り組む姿勢を忘れない ・自分から進んで行動する ・問題ごとがあってもチャレンジする (接し方に気をつける) ・笑顔で接する ・元気よく接する ・わきまえて接する ・穏やかな態度で接する ・利用者さんが話しやすいようにする ・思いやりの心をもって接する ・「させていただく」という感謝の気持ちをもって接する
<ul style="list-style-type: none"> ・慎重に接する (マナーを守る) ・清潔感を保つ ・身だしなみをきちんとする ・香水は控える ・ピアスは駄目 ・指輪ははずす ・爪を切る ・走り回らない ・せかせかした動きをしない (ルールを守る) ・時間を守る ・遅刻しない ・早めに来る ・注意事項に気をつける (見守を心がける) ・何かをしてあげるという心を捨てる ・手を出しすぎない 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分ができる範囲内のことは精一杯する ・利用者(相手)の立場に立つ ・利用者を観察する ・利用者さんに不快な思いはさせない ・利用者の自立をサポートする ・相手のことを考えて行動する ・相手の気持ちがわかる人間になる ・相手の気持ちを受け止める ・援助者は脇役であるということを心がける ・職員の方から学ぶ ・職員間に入っていけるように頑張る ・職員さんと早く馴染む ・職員の方の行動を観察する ・介護者の方の素敵な部分を発見する ・人間関係づくりをしていく ・信用されるようにする ・自分から心を開く ・目標を持つ ・目的を持つ ・尊重し合う ・協力し合う ・マイナス思考にならないようにする ・一日の反省をする ・振り返る時間を作る 	<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔を忘れない ・のびのびする ・元気良くする ・体調管理する ・ストレスがたまったら解消する ・価値ある時間を過ごす ・努力する ・気を配る ・一生懸命に取り組む姿勢を持つ ・気持ちが先走らないようにする ・てきぱきと動く ・元気よく ・失敗してもこれからに生かす ・染まらない ・止まらない ・自分自身成長する ・質の高い介護を目指す ・感謝の気持ちを忘れない ・感激の気持ちを忘れない ・感動の気持ちを忘れない ・謙虚な気持ちを忘れない ・共感を忘れない ・自分らしさを忘れない ・学生意識を捨てる

表5 実習前アンケートの評定尺度結果

項目		平均	(SD)
1. 実習は大変	(n=32)	4.69	(± 0.47)
2. 実習を行う不安	(n=32)	4.66	(± 0.59)
3. 実習への緊張	(n=32)	4.56	(± 0.79)
4. 実習で学ぼう	(n=32)	4.38	(± 0.83)
5. 実習がうまくできないかと思う	(n=32)	4.31	(± 0.81)
6. 実習で頑張ろう	(n=32)	4.25	(± 0.72)
7. 実習に行く時期が早いと思う	(n=32)	4.25	(± 0.84)
8. 実習に行くことに焦りを	(n=32)	3.91	(± 0.91)
9. 実習前にもっと勉強したかった	(n=32)	3.88	(± 0.87)
10. 教員による事前準備は充分	(n=31)	3.52	(± 0.77)
11. 実習への期待	(n=31)	3.39	(± 0.75)
12. 実習が楽しみ	(n=31)	2.94	(± 0.93)
13. 十分な自己準備で臨んでいる	(n=32)	2.91	(± 0.99)
14. 実習を行う自信	(n=31)	2.00	(± 0.77)
15. 実習がうまくできると思う	(n=32)	1.84	(± 0.83)

表6 実習後アンケートの評定尺度結果

項目		平均	(SD)
1. 実習で学んだ	(n=32)	4.72	(± 0.46)
2. 良い介護を身につけたい	(n=32)	4.59	(± 0.65)
3. 実習に行く時期が早かった	(n=32)	4.50	(± 0.67)
4. 実習は頑張った	(n=32)	4.44	(± 0.62)
5. 実習は大変	(n=32)	4.25	(± 0.62)
6. もっと勉強した方が良かった	(n=32)	4.25	(± 0.88)
7. 実習は楽しかった	(n=31)	4.23	(± 0.92)
8. 実習を終えた充実感を感じる	(n=31)	4.13	(± 0.66)
9. 実習に行き嬉しかった	(n=32)	4.09	(± 0.84)
10. 実習に行き疲れた	(n=32)	4.03	(± 0.92)
11. 実習で介護を理解した	(n=31)	3.77	(± 0.61)
12. 実習を終えて自信を感じる	(n=31)	3.42	(± 0.72)
13. 実習は辛かった	(n=31)	3.39	(± 0.94)
14. 教員による事前準備は充分であった	(n=31)	2.68	(± 0.83)
15. 事前の自己準備は充分だった	(n=32)	2.25	(± 0.80)
16. 実習に行き後悔した	(n=32)	1.69	(± 0.85)

と思う」であり、「実習を行う自信」、「十分な自己準備で臨んでいる」の順である。

以上から学生は、実習は大変と強く感じていること、不安と緊張があり、実習に対する自信がなくて、自己準備が乏しいと自覚しているが、実習で学ぼうとの意欲も高く併せもって実習に臨もうとしていると考えられる。

(3) 実習後アンケートの結果

5段階評定尺度の得点の高い順に示す(表6)。第1位は「実習で学んだ」であり、「良い介護を身につけたい」、「実習に行く時期が早かった」、「実習はよく頑張った」、「実習は大変」、「実習に行くまでもっと勉強した方が良かった」と続く。その反対に、最も得点が低い項目は「実習に行き後悔した」、「事前の自己準備」、「教員の準備」であった。

表7 実習前アンケートと実習後アンケートで共通した質問9項目の結果 数字は人数 (%)

	全く思わ ない(1)	思わ ない (2)	どちら でもない (3)	思 う (4)	と ても 思 う (5)	平 均 (SD)	t 値
1. 心理的構え							
(1)大変さ (逆転項目, n=32)							
①実習前: 実習は大変	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	10 (31.1)	22 (68.7)	4.69 (0.47)	3.45*
②実習後: 実習は大変	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (9.4)	18 (56.3)	11 (34.3)	4.25 (0.62)	
(2)自信 (n=31)							
①実習前: 実習を行う自信	9 (29.0)	13 (42.0)	9 (29.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2.00 (0.77)	7.70**
②実習後: 実習を終えての自信	0 (0.0)	4 (12.9)	10 (32.2)	17 (54.9)	0 (0.0)	3.42 (0.72)	
2. 肯定的心構え							
(1)頑張り (n=32)							
①実習前: 実習で頑張ろう	0 (0.0)	1 (3.1)	2 (6.3)	17 (53.1)	12 (37.5)	4.25 (0.72)	1.44
②実習後: 実習は頑張った	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (6.3)	14 (43.7)	16 (50.0)	4.44 (0.62)	
(2)学び (n=32)							
①実習前: 実習で学ぼう	1 (3.1)	0 (0.0)	1 (3.1)	14 (43.8)	16 (50.0)	4.38 (0.83)	2.61*
②実習後: 実習で学んだ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (28.1)	23 (71.9)	4.72 (0.46)	
(3)楽しみ (n=31)							
①実習前: 実習が楽しみ	2 (6.5)	7 (22.6)	14 (45.1)	7 (22.6)	1 (3.2)	2.94 (0.93)	6.19**
②実習後: 実習は楽しかった	0 (0.0)	2 (6.5)	4 (12.9)	10 (32.3)	15 (48.3)	4.23 (0.92)	
3. 実習前の事前準備							
(1)自己学習、自己準備 (n=32)							
①実習前: 充分な準備で臨む	3 (9.4)	8 (25.0)	10 (31.3)	11 (34.3)	0 (0.0)	2.91 (0.99)	3.22**
②実習後: 事前準備は充分だった	6 (18.8)	13 (40.6)	12 (37.5)	1 (3.1)	0 (0.0)	2.25 (0.80)	
(2)教員による事前準備 (n=31)							
①実習前: 充分である	1 (3.2)	0 (0.0)	14 (45.1)	14 (45.1)	2 (6.6)	3.52 (0.77)	4.99**
②実習後: 充分であった	2 (6.5)	10 (32.3)	16 (51.5)	2 (6.5)	1 (3.2)	2.68 (0.83)	
4. 実習時期 (n=32)							
①実習前: 実習に行く時期が早いと	1 (3.1)	0 (0.0)	2 (6.3)	16 (50.0)	13 (40.6)	4.25 (0.84)	1.54
②実習後: 実習に行く時期が早かったと	0 (0.0)	1 (3.1)	0 (0.0)	13 (40.6)	18 (56.3)	4.50 (0.67)	
5. 勉強 (n=32)							
①実習前: 実習前にもっと勉強したかった	0 (0.0)	2 (6.3)	8 (25.0)	14 (43.7)	8 (25.0)	3.88 (0.87)	2.17*
②実習後: もっと勉強した方が良かった	1 (3.1)	1 (3.1)	0 (0.0)	17 (53.1)	13 (40.7)	4.25 (0.88)	

以上から、実習後では学生はよく頑張ったと感じながらももっと準備して実習に臨みたかったとらえているようである。

(4) 実習を経験した変化

実習前アンケートと実習後アンケートの2回分のそろった32組を分析対象とした。実習前アンケートと実習後アンケートとで共通した内容の質問9項目の平均値を求め、対応のあるt検定を行った。その結果、7項目で有意差があった(表7)。

①実習に対する心理的構えに関しては、実習を経験したことによって「実習は大変だ」と思わなくなり

($t=3.45$, $df=32$, $P<.05$)、また「実習に対する自信」もついていた($t=7.70$, $df=31$, $P<.001$)。②実習に対する肯定的構えに関するものでは、実習で勉強しようとの気持ちが実習経験によって、「実習ではよく学んだ」($t=2.61$, $df=32$, $P<.05$)と一層強く感じるようになっていた。また、事前に実習を楽しみに感じていた気持ちは、実習を経験した後は一層強くなり、実習を楽しかったと強く思う($t=6.19$, $df=31$, $P<.001$)ようになっていた。③実習の事前準備に関しては、実習を経験したことによって「自己の準備」($t=3.22$, $df=32$, $P<.01$)、

「教員の準備」とともに不十分だった ($t=4.99$, $df=31$, $P<.01$) と強く感じるように変化している。このような変化に影響されているためか、実習に行くまでもっと勉強しておけばよかった ($t=2.17$, $df=32$, $P<.01$) とも思うように変化している。

以上から、実習を経験したことによって実習に対する心構えは殆どの項目で変化していること、変化の方向は全般に肯定的であるといえよう。特に、変化の大きかったのは、実習を行う自信がついた項目と実習を楽しかったと思うようになった項目である。この2点を中心に肯定的な心構えが実習経験によって一層、肯定的な方向へと変化している。そうした影響を受けてか、実習後は事前準備が不十分であったと感じたり、もっと勉強しておけばよかったと強く感じるように変化している。第I段階の実習を経験して、学生は実習を有意義なものとして意味づけるよう心構えや動機づけが変化しているといえよう。

IV. 総合的考察

本研究では、介護福祉士の資格取得を目指して入学した学生に対して、介護実習の体験がその後の学習の動機づけに対して及ぼしている影響を検討した。その結果、介護実習に対する心構えは実習経験によって全般に肯定的な方向へ変化したと考えられる。特に、肯定的な心構えに関する項目では、実習経験によって一層、肯定的な方向へと変化していた。

ボランティアや実習といった体験学習を行うことは、このように自己の体験を肯定化していく面があり、そのことが介護やボランティアに対する参加者自身の意識の変容をもたらすと考えられる。川元(2000)は、ボランティア参加者を対象として、参加前と参加直後、そして、3週間後の3時点での継続的調査を行って、参加者の意識の変容を把握している。この中で本研究の比較手法と同様に行われているボランティアの参加前と参加直後では、47項目中35項目で意識が変容したと報告している。肯定的変容を示したのは「ボランティアが楽しい」、「障害者や高齢者と一緒に遊びたい」、「障害者、高齢者は自分の仲間」の項目であり、その反対に、「障害者、高齢者と接している自分が世間からどう見られているか気になる」が負の変容をしていると報告している。本研究結果では実習体験による学生の意識の負の変容は認められなかったものの、実習は辛かったと回答した学生が少数ながらいた。したがって、今後は実習経験による学生の意識を肯定的変容、否定

的変容の両面から評価づける方法を検討することが必要と考えられる。

また、実習体験による学生の意識の負の変容への対策として、このような事態を最小限に回避させる対応も報告されている。介護実習中の学生の適応状態や実習に対する動機づけの維持には、教員や利用者、職員から受ける適切なソーシャルサポートが有効としている報告(鈴木・阿部、2003)がある。したがって、実習中、実習直後の指導方法や介入方法の検討も今後は必要と考えられる。

最後に、本研究の対象は介護福祉士の資格取得を目指して入学した学生であるが、本研究では入学の動機づけを把握しなかった。これに関して参考となるのが、高橋(2002)の先行研究の知見である。それによれば、介護福祉士養成の専門学校生に対して、介護の勉強を始めるきっかけを質問するアンケートを実施した結果、「今後、介護福祉士の資格が役に立つと思った」、「興味があった」、「やりがい、生きがいを求めた」との回答が過半数を占めていた。やりがいのある資格取得が主な目的の入学と考えられ、本研究の対象学生も似たような入学の動機をもっていると考えられる。こうした高い目的意識をもって入学した学生が介護実習という現実を経験しながら、自己の体験を肯定化して、内在化していく過程を経験していくことが重要であると考えられる。実習に対する学生の意識の変容や学習態度などの内的過程に対して養成校が提供している2年間の教育課程、内容とを有機的に体系化させることが今後必要である。具体的には、介護実習によって喚起した動機づけを科目の配当時期、特色あるカリキュラムとして重点化して配当するなどの具体的な教育課程において学習意欲へと維持させることが今後の課題である。

本研究の一部は、大学教育高度化推進特別経費「高等教育研究改革推進経費」補助金の「介護実習の早期実施に関する教育効果の有効性の検討」の助成を受けて行われた。

また、本研究の一部は、第10回日本介護福祉教育学会、介護実習の早期実施に関する有効性の検討(その1、その2)として発表した。

【文献】

- (1) 武藤久枝、平松夕奈、介護実習の早期実施に関する有効性の検討（その1）、第10回日本介護福祉教育学会発表抄録集、P.184-185、2003年。
- (2) 平松夕奈、武藤久枝、介護実習の早期実施に関する有効性の検討（その2）、第10回日本介護福祉教育学会発表抄録集、P.186-187、2003年。
- (3) 川元克秀、福祉教育・ボランティア学習活動参加後の学習者のボランティア活動意欲の変容、社会福祉学 Vol. 41-1 (No. 62)、P. 121-133、2000年。
- (4) 高橋昌子、元気高齢者の介護マンパワーとしての活躍に関する一考察、一若い学生と中高年受講生の調査を通して、介護福祉学 Vol. 9 No. 1、P. 41-50、2002年。
- (5) 鈴木聖子、阿部明子、介護福祉実習における学生の適応とサポートの検討、第10回日本介護福祉教育学会発表抄録集、P. 188-189、2003年。

資料1

施設見学について

人間福祉学科 Iクラス Jクラス

1. 痴呆の高齢者の方に接した経験（ボランティアや実習などで）についてお聞かせください。

①今回の見学が初めて ②今までに1～3回ある ③それ（4回）以上ある

2. 今回の見学で痴呆の高齢者にあなたはどのように接しましたか。当てはまるものに○を付けてください。（いくつでも可）

- ① あいさつ、自己紹介で話しかけた
- ② ①よりも沢山話した
- ③ 小グループで話した
- ④ 一緒に歌をうたった
- ⑤ 手をつなぐなどのスキンシップをとった
- ⑥ そばに座った
- ⑦ 話しかけようと思っても話せなかった
- ⑧ 近くで見ていた
- ⑨ その他（

3. 見学で見てきた事は、その後の授業を理解する上で、または今迄習ったことを理解する上でどのように役立ちましたか。該当するものに○を付け、『あり』の場合は授業の具体的な内容を記入して下さい。

例： あり（内容：介護技術Ⅰのコミュニケーション）・なし

- | | | |
|-----------|----------------|--------------|
| ① 介護技術Ⅰ | <u>あり</u> （内容： | ）・ <u>なし</u> |
| ② 形態別介護技術 | <u>あり</u> （内容： | ）・ <u>なし</u> |
| ③ 障害者の心理 | <u>あり</u> （内容： | ）・ <u>なし</u> |

- | | | |
|---------------|----------------|--------------|
| ④ 障害者福祉論 | <u>あり</u> （内容： | ）・ <u>なし</u> |
| ⑤ 老人福祉論 | <u>あり</u> （内容： | ）・ <u>なし</u> |
| ⑥ 社会福祉概論 | <u>あり</u> （内容： | ）・ <u>なし</u> |
| ⑦ 介護概論 | <u>あり</u> （内容： | ）・ <u>なし</u> |
| ⑧ 社会福祉援助技術 | <u>あり</u> （内容： | ）・ <u>なし</u> |
| ⑨ 医学一般Ⅰ | <u>あり</u> （内容： | ）・ <u>なし</u> |
| ⑩ 介護実習指導 | <u>あり</u> （内容： | ）・ <u>なし</u> |
| ⑪ 実習オリエンテーション | <u>あり</u> （内容： | ）・ <u>なし</u> |
| ⑫ 家政学概論 | <u>あり</u> （内容： | ）・ <u>なし</u> |
| ⑬ 精神保健 | <u>あり</u> （内容： | ）・ <u>なし</u> |
| ⑭ 倫理学 | <u>あり</u> （内容： | ）・ <u>なし</u> |
| ⑮ 情報基礎演習 | <u>あり</u> （内容： | ）・ <u>なし</u> |

4. あなたの持っていた高齢者施設（特別養護老人ホームなど）のイメージはどのようなですか。

以前のイメージ

見学後のイメージ

5. その他（自由に記述して下さい）

皆さんが、はじめての実習に行くにあたって、今の気持ちやを勉強したいことについてお聞かせ下さい。このアンケートは成績や評価には関係しません。全体で集計した結果でまとめますので個人の意見が出ることはありません。

【記入の仕方】 次の文を読んで _____ の箇所にあなたの今の気持ちや状態をありのままにご記入ください。文中の「実習」は今回の第1段階の実習のことです。

例：この実習に行くことについて私は、張り切って楽しみに している

1. 実習で不安なことは、 _____ です。
2. 実習で楽しみにしているのは、 _____ です。
3. 実習で自信があるのは、 _____ についてです。
4. 実習で自信のないのは、 _____ についてです。
5. 実習で目標にしていることは、 _____
6. 実習で頑張ろうと思うことは、 _____
7. 実習で勉強したいことは、 _____
8. 実習で期待していることは、 _____
9. 今の私の実習に行くことについての気持ちは、 _____
10. 実習で利用者と接することについて、 _____
11. 実習で職員と接することについて、 _____
12. 実習で現場を経験することについて、 _____
13. 実習までにもっと勉強したかったことは、 _____
14. 第1段階実習に行くのにちょうど良い時期は _____ 頃と思います。
15. 私が目指す介護福祉士は、 _____

- 1 -

次の文を読んで、実習に対する今のあなたの気持ちにあてはまるものに例にならって○で囲んでください。

【回答の仕方】

実習に行くことに心配を _____

全く 感じない	感じない	どちら でもない	感じる	とても 感じる
------------	------	-------------	-----	------------

1. 実習に期待している _____

全く 思わない	思わない	どちら でもない	思う	とても 思う
------------	------	-------------	----	-----------

2. 実習は大変だと _____

全く 思わない	思わない	どちら でもない	思う	とても 思う
------------	------	-------------	----	-----------

3. 実習に行く時期が早いと _____

全く 思わない	思わない	どちら でもない	思う	とても 思う
------------	------	-------------	----	-----------

4. 実習を行う自信が _____

全く ない	ない	どちら でもない	ある	とても ある
----------	----	-------------	----	-----------

5. 実習がうまくできると _____

全く 思わない	思わない	どちら でもない	思う	とても 思う
------------	------	-------------	----	-----------

- 2 -

6. 実習に行くことに緊張を _____

全く 感じない	感じない	どちら でもない	感じる	とても 感じる
------------	------	-------------	-----	------------

7. 実習に行く準備を自分なりに _____

全く して いない	して ない	どちら でもない	して いる	充分 した
-----------------	----------	-------------	----------	----------

8. 実習がうまくできないのではと _____

全く 思わ ない	思わ ない	どちら でもない	思う	とても 思う
----------------	----------	-------------	----	-----------

9. 実習に行くことに焦りを _____

全く 感じない	感じない	どちら でもない	感じる	とても 感じる
------------	------	-------------	-----	------------

10. 実習に行くための探索等の準備を教員は _____

全く して ない	して ない	どちら でもない	して いる	充分 した
----------------	----------	-------------	----------	----------

11. 実習に行くことを頑張ろうと _____

全く 思わ ない	思わ ない	どちら でもない	思う	とても 思う
----------------	----------	-------------	----	-----------

12. 実習で学びたいと _____

全く 思わ ない	思わ ない	どちら でもない	思う	とても 思う
----------------	----------	-------------	----	-----------

13. 実習に行くまでにもっと勉強したかった _____

全く 思わ ない	思わ ない	どちら でもない	思う	とても 思う
----------------	----------	-------------	----	-----------

14. 実習は楽しみ _____

全く 思わ ない	思わ ない	どちら でもない	思う	とても 思う
----------------	----------	-------------	----	-----------

15. 実習を行う不安を _____

全く 感じ ない	感じ ない	どちら でもない	感じる	とても 感じる
----------------	----------	-------------	-----	------------

実習に行く前の今の気持ちを何でも自由に書いてください

実習を終えてのアンケート A (武藤)

2002/08/31

皆さんが、はじめての実習を終えた気持ちや勉強したことについてお聞かせ下さい。
このアンケートは成績や評価には関係しません。また、全体で集計した結果でまとめます
ので個人の意見が出ることはありません。

【記入の仕方】 次の文を読んで 箇所にあなたの今の気持ち
や状態をありのままにご記入ください。文中の「実習」は今回の第1
段階の実習のことです。

例：この実習に行ったことで私は、良かったと感じて いる

1. 実習で困った事は、 _____ です。
2. 実習で嬉しかったことは、 _____ です。
3. この実習で自信を持ったことは、 _____
4. 実習を終えて介護についての私の考えは、 _____
5. この実習で勉強したことは、 _____
6. 実習を終えた私の今の気持ちは、 _____
7. 実習で利用者と接してみて、 _____
8. 実習で職員と接してみて、 _____
9. 実習で現場を経験してみて、 _____
10. 実習までにもっと勉強した方が良かったことは、 _____
11. 第1段階実習に行くのにちょうど良い時期は _____ 頃と思います。
12. 私が目指す介護福祉士は、 _____
13. 実習に行って私の考えが変わったことは、 _____
14. 実習をして大変だったことは、 _____
15. これから勉強したくなったのは、 _____

1

7. 実習を終えて自信が _____
全く つかない どちら ついた とても
つかない でもない ついた
8. 実習に行って
介護を理解
出来た _____
全く 思わない どちら 思う とても
思わない でもない 思う
9. 実習に行って嬉しかった _____
全く 感じない どちら 感じる とても
感じない でもない 感じる
10. 実習は頑張った _____
全く 思わない どちら 思う とても
思わない でもない 思う
11. 実習は辛かった _____
全く 感じない どちら 感じる とても
感じない でもない 感じる
12. 実習は楽しかった _____
全く 感じない どちら 感じる とても
感じない でもない 感じる
13. 実習は大変だったと _____
全く 思わない どちら 思う とても
思わない でもない 思う
14. 良い介護を身につけたい _____
全く 思わない どちら 思う とても
思わない でもない 思う

実習後のアンケート B (武藤)

2002/08/31

次の文を読んで、実習を終えた今のあなたの気持ちにあてはまるものに例にならって○
で囲んでください。

【回答の仕方】

実習に行ってこれからも
頑張ろうと

全く 感じない どちら 感じた とても
感じない でもない 思う

1. 実習に行って疲れた _____
全く 思わない どちら 思う とても
思わない でもない 思う
2. 実習に行って後悔した _____
全く 思わない どちら 思う とても
思わない でもない 思う
3. 実習で学んだと _____
全く 思わない どちら 思う とても
思わない でもない 思う
4. 実習に行くまでにもっと
勉強した方が良かったと _____
全く 思わない どちら 思った とても
思わなかった でもない 思った
5. 実習に行く時期が早いと _____
ほとんど あまり どちら やや とても
思わない 思わない でもない 思った 思った
6. 実習に行く自分なりの
準備は _____
とても 不十分 どちら 充分 とても
不十分 だった でもない だった 充分
だった だった だった

2

15. 実習を終えた充実感を _____
全く 感じない どちら 感じる とても
感じない でもない 感じる
16. 実習に行くための授業等
の教員の準備は _____
全く 充分でない どちら 充分 とても
充分でない でもない だった 充分
充分でない だった だった だった

実習を終えた今の気持ちを何でも自由に書いてみてください。